

防災



被害を最小限に抑える

減災

市では昨夏以降、各地区を回り、自主防災組織の必要性を説明し、結成を呼び掛けています。

また、一人でもできる備えもあります。普段から、「今、地震が起きたらどうするか」「災害のときにどこに逃げるか」などを意識して考えることを勧めます。災害が起きたときに、どのような行動をするかを身に付けていることが大切なのです。

守られているから安心という気持ちで、災害が起きたときにいかに行動できるかを身につけているから安心という気持ちに切り替えましょう。

そのことが本当の安心や「減災」につながるはず。

1 災害が起きるかもしれないという意識で備える
 2 自分の命は自分で守るという気持ちで備える
 3 地域で助け合うという気持ちで備える

これらの実現するための一つの手段が、町内会や自治組織などを母体に組織する自主防災組織の結成です。いざというときに本当に命を救うことができるのは、実は市民の皆さんの力なのです。阪神・淡路大震災や東日本大震災においても、このことは明らかです。向こう三軒両隣といわれる人と人とのつながりが減災につながります。

総社市は、自然災害の発生が比較的少ないといわれています。しかし、歴史を振り返ると、現在の高梁川の堤防が築かれる前までは、何度も大きなはん濫を繰り返していました。近年では昭和47年7月の水害が記憶に新しいものです。

東日本大震災で自然災害の脅威を目の当たりにしました。改めて「備えあれば憂いなし」といわれる「備え」の重要性がクローズアップされています。災害が発生したとき、備えしだい

で被害を大きく減らす減災につながります。

総社市で心配される災害をいくつか挙げると、高梁川の決壊、大雨による浸水、土砂災害、地震などがあります。

これらへの対策は行政の役目です。しかし、これだけでは減災は実現できません。市民の皆さんの「備え」という協力が不可欠です。そして、市民の皆さんによるしつかりとした「備え」が、「減災」につながる。といっても言い過ぎではあ

身を守るすべを一人ひとりが備えてほしい

クローズアップ 市政

交通

中国銀行とも調印

問い合わせ 人権・まちづくり課 安全安心係
 (☎08249)

雪舟くんと店舗の利用増を目的に



総社市保健センターで行われた調印式

希望する場所から場所へ送迎する予約型で乗合方式の公共の乗り物「雪舟くん」の利用促進と店舗の集客数の増加の相乗効果を図ろうと2月13日、中国銀行の総社・総社東の両支店と市は「雪舟くん相互支援協定」を締結

しました。

いずれの支店も待合所の設置と利用予約を代行し、雪舟くんの利用者へのおもてなしを行います。

協定書に署名・押印した中国銀行の谷慎二総社支店長は「雪舟くんを利用して、気軽に来店していただければ」と話しました。

昨年8月以降、同様の内容の協定を、市内の6事業所と締結。今回のものを含めると7事業所になりました。



総社支店の待合所



総社東支店の待合所

東日本大震災復興支援 映画「エクレール・お菓子放浪記」上映

3月25日(日)
 午後2時～4時
 市民会館



戦時中から終戦直後に甘いお菓子への憧れを胸に生き抜いた孤児の物語

東日本大震災の復興支援を目的に、この震災前の石巻市で撮影された映画「エクレール・お菓子放浪記」を上映します。

チケット1枚につき30円が震災孤児の支援に充てられます。また、推進委員会の収入となるチケット収入総額の5%は、そうじゃ・宮城っ子基金へ寄付します。

チケットは、市役所や支所、総合文化センターなどで販売中。前売券1000円、当日は一般1500円、小・中学生・高校生800円。

申込先・問い合わせ エクレール上映推進委員会
 ☎92-8218、総務課内

高梁川河川敷グラウンドで 芝張りを行ってくれる ボランティア募集

作業日 4月14日(土)、15日(日)
 いずれも午前9時～午後4時まで

高梁川河川敷グラウンドのF・Gグラウンドに集合

高梁川の増水時に備え、高梁川河川敷グラウンドに芝を張ります。

芝を並べ、その上に目土を入れる作業を行っていただけるボランティアの人やグループを募集しています。

協力いただける場合は、名前と住所、年齢、電話番号とともに、参加できる日を生涯学習課までファクシミリかEメールで申し込みをしてください。

※昼食は各自で準備してください。
 ※作業のできる服装で長靴か運動靴。軍手を持参。

申込先・問い合わせ 生涯学習課 体育振興係
 ☎92-8367、☎92-8397
 ed-syogai@city.soja.okayama.jp